

海外安全対策情報（2016年1月～3月）

1 社会・治安情勢

2月18日、ウガンダでは大統領及び国民議会議員選挙が行われ、同20日16時10分、選挙管理委員会から以下のとおり次期大統領選挙結果が発表されたところ、ムセベニ現大統領が有効投票数の過半数の票を獲得し、次期大統領に選出されました。なお、報道によれば、大統領選挙と同時に行われた国民議会選挙においては、8名の現職閣僚及び13名の現職国務大臣が落選しました。

各候補の得票数、有効投票数に占める割合（最終結果）

・ヨウェリ・カグタ・ムセベニ（国民抵抗運動：NRM）	5,971,872	（60.62%）
・キザ・ベシジェ（民主変革フォーラム：FDC）	3,508,687	（35.61%）
・アママ・ムババジ（無所属）	136,519	（1.39%）
・アベド・ブワニカ（人民発展党：PDP）	89,055	（0.90%）
・ベナンシアス・バリヤムレバ（無所属）	52,798	（0.54%）
・モーリーン・キャリア（無所属）	42,833	（0.43%）
・ベノン・ビラアロ（農民党：FPU）	25,600	（0.26%）
・ジョセフ・マビリジ（独立連合：TIC）	24,498	（0.25%）

登録有権者数 15,294,070 人

投票数 9,701,737 票

有効投票数 9,246,562 票

無効票数 455,175 票

※2月20日16時10分時点

2 一般犯罪・凶悪犯罪

（1）盗難・強盗事件

○ムバララ県（Mbarara）：西部

2月15日朝、ビジネスマンが売上金を銀行へ預けに行く際に4人組の武装強盗に襲われ、売上金1億2千万シリング（邦貨約380万円）を強奪されました。

○携帯電話ひったくり事件頻発

警察の報道によると、2015年12月から2016年2月までの3ヶ月の間に約1.7億シリング分の携帯電話がひったくりの被害にあっている。

携帯電話のひったくりの件数が多い地域は、クロック・タワ地域、ベン・

キワヌカストリート、ユスフ・ルレロード（特にゴルフコース付近）ナキヴボロード、ンクルマロードとなっております。十分にご注意下さい。

○イースターホリデー期間中の犯罪に関し

カンパラ県、ワキソ県、ムコノ県では、スリ・ひったくり・暴行・窃盗・強盗等の犯罪で150名が逮捕されました。

(2) 殺人事件

○カンパラ市(Kampala)：中央

ア 1月2日、マケレレ大学に通う男子学生が帰宅途中(Kikoni)に何者かに鉄棒で襲撃されました。学生は自宅に戻り就寝につきましたが、就寝中に容体が悪化しそのまま亡くなりました。

報道によると、ムラゴ病院には鉄棒で襲撃されて搬送される患者が月120人に達するとのことです。

イ 1月12日報道によると、1月9日ブンガ(Bunga)にて警察官2名が配置先から帰宅中に何者かに殺害され、自動小銃が略奪されました。また、ナグル(Naguru)においても警察官1名が配置先から帰宅中に襲撃され、自動小銃が略奪されました。

○グル県(Gulu)：北部

1月6日朝、ライビ郡(Laybi)にあるローカルマーケットで男性の射殺体が発見されました。

○ジンジャ県(Jinja)：東部

1月16日、マフビラ郡(Mafbira)で28歳女性が飲酒後の帰宅中、犯罪グループに強姦された後に殺害されました。

(3) 強姦事件

邦人が被害に遭ったとの情報には接していませんが、ウガンダにおいては強姦事件が深刻な問題となっています。また、被害者となる女性の大半が未成年者であり、近親相姦が頻繁に発生しています。

○ラカイ県(Rakai)：西部

1月20日報道によると、孤児院を運営していた米国籍の80歳牧師が、10歳と16歳の少女を強姦した容疑で警察に逮捕されました。

○カバレ県(Kabale)：西部

1月26日報道によると、牧師が16歳の少女を強姦した容疑で警察に逮捕されました。

3 テロ・爆弾事件発生状況

テロ・爆弾事件は発生していません。しかし、ウガンダ政府は近隣国ソマリ

アの治安向上を目的にアフリカ連合ソマリアミッション (AMISOM) に自国軍を派遣し、ソマリア武装テロ組織「アル・シャバーブ」に対する掃討作戦に参加しています。このため、同組織はウガンダへの反発を強めており、しばしば当国を名指しで報復する旨発言していることから、引き続き注意する必要があります。

また、シリアやチュニジアにおいて日本人が殺害されるテロ事件をはじめ、ISIL (イラク・レバントのイスラム国) 等のイスラム過激派組織又はこれらの主張に影響を受けている者によるとみられるテロが世界各地で発生していることを踏まえれば、日本人・日本権益がテロを含む様々な事件に巻き込まれる危険があります。このような情勢を十分に認識して、誘拐・脅迫・テロ等の不測の事態に巻き込まれることがないように、渡航情報及び報道等により最新の治安・テロ情報等の関連情報の入手に努め、日頃から危機管理意識を持つとともに状況に応じて適切で十分な安全対策を講じるよう心がけてください。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人が誘拐・脅迫される事件は発生していません。しかし、ウガンダにおいては人身売買および身代金を目的とした誘拐事件が多数発生しており、邦人が巻き込まれる可能性も否定できないため、滞在中は警戒を怠ることのないよう十分注意してください。

○アムダディ県 (Amudat) : 東部

3月13日、12歳と18歳の男性が、30人の集団に誘拐されました。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

対日感情が良好なこともあり、日本企業であることを理由に標的とされる可能性は低いですが、上記「テロ・爆弾事件発生状況」のとおり、テロが世界各地で発生していることを踏まえれば、日本人・日本権益がテロを含む様々な事件に巻き込まれる危険も排除できませんので、十分注意のうえ安全対策を怠らないよう努めてください。

以上